

講師・支援研究者・協力者紹介

講師(番組担当)

太田 満(おおたみつる)

北海道赤平市生まれ。天理大学外国語学部ロシア語学科卒業。外国語学士。
旭川アイヌ語教室講師。ロシア語・ルーマニア語法廷通訳。
北海道教育大学旭川校非常勤講師。ラジオ講座教科書校閲も担当。

支援研究者(教科書執筆担当)

井筒 勝信(いづつかつのぶ)

神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。
北海道教育大学旭川校助教授。
専門は機能主義・認知言語学に基づく西洋語・東亜語対照研究。

協力者

録音協力(声の出演)

川村シンリツ・エオリパック・アイヌ(兼一)

旭川市近文コタン生まれ。川村カ子トアイヌ記念館第三代目館長。
1987年より旭川アイヌ語教室を主宰し、イオマンテを行うなど積極的に民族の精神と伝統・文化の保存と発展に努めている。祖父君はコタンコロクルで記念館初代館長のイタキシロマ翁。
父君は測量技師としてもアイヌ文化伝承者としても著名な
記念館第二目館長川村カ子トッカアイヌ翁。

杉村 フサ

旭川市近文コタン生まれ。
夫君の故杉村満氏と共に旭川アイヌ語教室の開設以来の主要な構成員で、近年ではアイヌ語上級講座講師も勤める。刺繍、踊り、料理を中心に民族の伝統・文化の保存と普及に努めている。
母君はアイヌ語・アイヌ文学の伝承者として名高い杉村キナラブック媼。

教科書執筆協力(ドリル原案作成)

手塚 順孝(てづかよしたか)

東京都板橋区生まれ。中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了。修士(文学)
米国ポートランド州立大学大学院TESOL修士課程修了。英語科教授法修士。
明治大学法学部非常勤講師。
専門は言語政策・言語教育を対象とした認知言語学的研究。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール

月	日	タイトル	ページ
4月	4日	挨拶を交わす(こんにちは、さようなら)	6
	11日	指し示す(これ、あれ)	8
	18日	尋ねる(～かどうか)	10
	25日	尋ねる(何、だれ)	12
5月	2日	比べる(～のよう、同じ、違う)	14
	9日	取り立てる(～は、～ばかり)	16
	16日	練習問題(1)	18
	23日	方向を示す(～に、～で、～から)	20
	30日	所在を伝える(～にある・いる)	22
6月	6日	時を表現する(いつ、すぐ、～まで)	24
	13日	考え・気持ちを伝える(～したい、～するようだ、～と)	26
	20日	伴う事柄を表現する(～と一緒に、～して)	28
	27日	練習問題(2)	30

【旭川アイヌ語教室の活動について】

旭川アイヌ語教室は、毎週日曜日、18時30分から21時まで、旭川市市民生活館で開講されています。年齢、性別などいかなる条件も問わず、どなたでも歓迎します。お問い合わせは、川村カ子トアイヌ記念館(電話0166-51-2461)までお気軽にご連絡下さい。また、記念館公式ホームページ(<http://www.g-web.co.jp/ainu/>)をご覧ください。

アイヌ語旭川方言：発音と表記法

アイヌ語旭川方言

本年度のアイヌ語ラジオ講座では、旭川方言を学びます。ここで旭川方言と呼ばれるのは、主に石狩川中流域から上流域にかけての地域で話されていた言葉です。石狩方言と呼ばれることもありますが、「石狩」という地名を用いると札幌を中心とする現在の石狩支庁を想起し易く誤解を招きやすいことからこの名称を避け、寧ろ当該方言話者の主な生活地であり、またこの方言のアイヌ語教室の開催地でもある「旭川市」から名前を取って旭川方言と呼ぶのが慣習的になってきています。

旭川方言は、石狩川にあるカムイコタンより下流に住むパニウクル(川下の人)の言葉とカムイコタンより上流に住むペニウクル(川上の人)の言葉の二つに下位分類されます。それぞれ、空知方言と上川方言と呼ばれることもあります。これら二つの下位方言は、他の地域の方言と比べれば互いに極めて似通っているのですが、パニウクルとペニウクルの人々は互いの微妙な言葉遣いの違いを意識していたようです(kampinuye 6の「文化的背景」の項を参照)。このような方言上の差異はそれぞれの地域のアイデンティティーを象徴するものであったのか、川下から川上へあるいはその反対に移り住んだものは行った先の言葉を使うよう強く勧められたり、元の地方の言葉をあからさまに使い続けると、たしなめられたりしたそうです。

また、目下調査中のため、まだはっきりとしたことは言えないのですが、古い資料などから石狩川の下流域から河口にかけての地域で話されていた言葉も旭川方言と概ね同様な方言であった可能性が示唆され始めています。もし、この示唆が事実であるとすると、上川方言と空知方言からなる旭川方言と石狩川下流域の方言全てを包括するより大きな方言は「石狩方言」と呼ぶのが相応しいかもしれません。この方言は全て石狩川筋に分布するわけですし、札幌の一部もこの方言圏に属することになるからです。このようなことを考えると、今後これらの方言に関して行われる研究の動向からは目が離せません。

アイヌ語旭川方言の発音

アイヌ語の他の方言と同様、旭川方言でも意味の違いを生じる音の最小単位(音素と呼ばれます)は、ア、エ、イ、オ、ウの五つの母音とカ、サ、タ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、ワ、チャ、パの中でアの前に響く11の子音(アルファベットでは、k, s, t, n, h, m, y, r, w, c, pと表記されます)を合わせた計16個だけです。但し、意味の違いを生じないものの、カ、サ、タ、チャ、パの代わりにそれとはやや異なる響きを持つ音(異音と呼ばれます)が用いられることもあります。カの代わりにガ(例:インカラをインガラ)、サの代わりにシャ(例:サマニをシャマニ)、タの代わりにダ(例:ネコンタをネコンダ)、チャの代わりにジャまたはヂ(例:アチャポをアジャポまたはアザポ)、パの代わりにバ(例:サバをサバ)が使われることがあります。これら交替する音同士(異音同士)はどちらを使っても基本的には良いのですが、旭川方言としてより頻繁に使われる音というのも実際あるようで、パベピボブの代わりにバベピボブはその代表的なものです。

このような音の変化に加えて、子音が連続する場合・母音が連続する場合の音の変化があります。また、アクセントとその位置、音節末の子音などアイヌ語の発音についてやがては知っていかなければならないことがまだ幾らかあります。けれども混乱するといけませんので、ここで更に詳説することを避けたいと思います。まずは講座で発せられる実際の発音に注意深く耳を傾けて、そこで聞かれる音に慣れることを目標としましょう。第二期以降になって個々の単語や句の発音に慣れてきた頃に、ここで扱わなかった事柄を改めて取り上げ、それらについても少しずつ学んでいくことにします。

アイヌ語の表記法

アイヌ語には、比較的最近まで正書法というものが存在しませんでした。研究の場で比較的長きに渡って実践されてきたアルファベットとカタカナ併記による表記法がアコロイタツという教科書で採択され、それが正書法に近い形で確立されました。本講座でも、教科書の本文ではこの表記法に倣いますが、旭川アイヌ語教室での実践に従ってアルファベット表記を優先的に用い、カタカナは発音などを捉えやすくするための補助的な使用にとどめます。従って、本文以外の解説でのアイヌ語表記には基本的にアルファベットを用いています。これは、アイヌ語以外の言語を母語とする人がアイヌ語を学ぶ際の便宜を図るもので、今後の正書法確立に対して何ら特定の示唆を意図したものではないことを申し添えておきます。

アイヌ語の文体

日本語でも口語体と文語体の区別があるようにアイヌ語にも類似した文体の区別があるようです(これは、kampinuye sine(第一課)の文化的背景で紹介するように、動詞の見られる「単数と複数」という文法的(形式的)な区別と意味・機能上で関係が深いようです)。親しいもの同士で交わされる日常的な会話や文学性の必ずしも高くない語り物で用いられるのが口語体とでも呼ぶことが出来る文体で、これは方言的な際も大きく時にはぶっきらぼうな言い方にも響くこともある言葉遣いです。それに対して、初対面の人同士やあるいは社会的地位に差のある者同士の間で交わされるより正式な言葉遣い、文学性の高い語り物ないしは謡い物で用いられる言葉遣いは文語体とでも呼ぶことが出来る文体で、しばしば丁寧な言い回しと受け取られます。

子供の自然な言語獲得という観点から見ると、口語体を身に付けるほうが圧倒的に早く、文語体はそれよりも大分後になってから獲得されるはずなのですが、大人が別の言語を母語として身に付けた後に異言語としてアイヌ語を学ぶとなると最初に口語体のみを学び始めるのは余り得策とはいえません。ある意味ではぶっきらぼうな、またある意味では子供っぽい言葉遣いをするようになるからです。そこで、第一期の前半では同じ口語体でも完全な略式の言い回しではなく、やや文語寄りの正式な言い回しを先ず取り上げることにして、第一期の後半で略式の言い回しを学ぶことにします。こうすることで、学んだ表現をすぐさま使ったとしても、大人の言葉遣いとしてそれ程不適切ではないアイヌ語で会話が出来ることになります。本格的な文語については、第二期以降にのんびり学んでいくことにしましょう。

kampinuye 1 (sine): 挨拶を交わす(こんにちは、さようなら)

カンピヌイエ シネ

A: totek no es=okay ruwe? トーテックノエソカイルウェ?	こんにちは。
B: ru un. ney ne e=oman ruwe a? ルウン ネイネエオマンルウェア	こんにちは。どちらへ?
A: tane Satporo ekota ku=hosipi. タネサッポロエコタクオシビ	もう札幌に帰ります。
B: yayoutpare no hosippa yan. ヤイトゥパレノオシッパヤン	あら、それではお気をつけて。
A: iyayraykere. pirka no okay yan. イヤイライケレ ピリカノオカヤン	ありがとうございます。それでは失礼いたします。

👉 学習の要点

1. totek no es=okay ruwe?

totek no es=okay ruwe?「トーテックノエソカイルウェ?」は、人と会った時に第一声として発せられる種類の挨拶です。差し詰め日本語の「おはようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」などに類する場面で用いることができます。これは、正式なあるいは丁寧な言い方で、略式(親しみを込めた、時にはややぶっきらぼうな)言い方は totetek no e=an ruwe?「トーテックノエアンルウェ?」です。totetek(元気である)、no(副詞形成語尾)、es=(あなたたち、あなた)、e=(おまえ、きみ)、okay(いる[複数])、an(いる[単数])、ruwe(の)からなっており、それぞれ文字通りには「あなた(たち)はお元気なのですか?」、「おまえは元気なの?」くらいの意味です。返事は通例 ru un ルウン(はい)と表現されます。「元気ではありません」のように答えることはあまりないようですが、もしそのような意味を伝えなければsomoソモとなるようです。正式で丁寧な言い方には複数形のokayを、略式の言い方には単数形のanを用いるようです。

totetek no e=an ruwe? 元気?
トーテックノエアンルウェ?
somo. ku=omkekar. うん。風邪ひいた。
ソモ クオムケカ

2. pirka no okay yan と yayoutpare no hosippa yan

別れるときの挨拶には大きく分けて二種類の表現があります。挨拶が交わされる場所から去っていく人とそこへ留まる人のどちらが言うかによって異なります。**pirka no okay yan**「ピリカノオカヤン」は文字通りには「元気でいて下さい」の意味で、去っていく人がそこへ留まる人に言う表現です。それに対して、そこへ留まる人は去っていく人に対して **yayoutpare no hosippa yan**「ヤイトゥパレノオシッパヤン」(文字通りには「気をつけて行ってください」の意味)と言います。お互いその場を去る場合は、両者が **yayoutpare no hosippa yan** を使います。

yayoutpare no(気をつけて)の代わりに apunno(無事で)と言っても pirka no(元気で)と言っても間違いではないでしょうが、上記の組み合わせの頻度が高いようです。また、yanを使ったこれらの表現は正式で丁寧な言い方なのに対して、yanの代わりにyaを用いるとやや略式の(親しみを込めた、時にはややぶっきらぼうな)言い方になります。正式な表現ではokayやhosippaのような複数形の動詞が、略式の表現ではanやhosipiのような単数形の動詞が用いられやすいようです。

A: yayoutpare no hosipi ya. ヤイトゥパレノオシビヤ	A: yayoutpare no hosipi yan. ヤイトゥパレノオシッパヤン
B: pirika no okay ya ピリカノオカヤ	B: yayoutpare no hosipi yan. ヤイトゥパレノオシッパヤン

👉 今日の構文

i-自動詞 -re/-te: ~させて下さい

このような構造を持った挨拶表現ないしは定型表現が少なからずあります。そのような例には、yayrayke(感謝する)、rankarap(挨拶する)、onkami(拝礼する)を対応する自動詞として含む iyayraykere(ありがとうございます<感謝させて下さい)、iramkarapte(はじめまして<挨拶させて下さい) ionkamire(どういたしまして<拝礼させて下さい)などがあります。iyayraykereは「ありがとう」のように訳されることが多いようですが、kampinuye 12の文化的背景で紹介するように伝統的に

はかなり正式で丁寧な表現で、日本語の「どうも」、「わるいね」、「ありがとう」、「サンキュー」のような軽い感謝の表現として用いられることは伝統的にはなかったようです。また、iyayraykereに対する返答(「どういたしまして」のような表現)として ionkamire が用いられる場合もあるようですが、日本語の「どうもありがとうございます」と「どういたしまして」のように綺麗な対をなしてはいたわけではないようです。

このように日本という文脈でアイヌ語を用いていこうとする際、本来アイヌ語文化(ainu puri アイヌプリ)では存在しなかったかもしれない表現が必要となってくるかもしれません。ここで扱った構造は、そのような表現を新しく準備していくためにも有益かもしれません。どの表現も、「相手にある行為をさせてもらう」という発想をすることによって謙虚さと丁寧さが意図されていると考えることも出来ます。その意味ではアイヌ語の発想を挨拶表現あるいは定型表現に反映させるための大切な文法と言えるかもしれません。

📁 文化的背景

単数と複数から正式と略式、文語体と口語体へ

アイヌ語には「単数と複数」の文法的(形式的)な区別があり、この違いは多くの方言で更に「正式と略式」、「文語体と口語体」という意味・機能上の区別にも転用されます。旭川方言では挨拶言葉に使われる表現でもそのような区別がなされます。totetek no es=okay ruwe や pirka no okay yan、yayoutpare no hosippa yan の okay、hosippa は「複数の人がいる」、「複数の人が帰る」という意味です。それに対して、totetek no e=an ruwe や yayoutpare no hosipi ya の an、hosipi は「一人の人がいる」、「一人の人が帰る」という意味です。

なぜこのような転用が見られるのかは明らかではありませんが、複数の人の動作を描写する表現は言わば「多くの人にもあてはまる一般的な言い方」であることから、転じてどんな場合でも通じる正式な言い方となったのかもしれない。これを一人の人の動作を描写するのに用いることは、一人の人に正式な言い回しをすることで、それはその人に対して丁寧な態度をとることに通じるため時に「丁寧」さが表現されることも考えられます。また、「多くの人にもあてはまる一般的な言い方」は「時間と場所の違いを超えてあてはまる一般的な言い方」とも解釈でき、そのよう役割を果たすものとして文語的な表現ともみなされるのではないのでしょうか。

🔍 言葉をもっと詳しく

日本語で別れの挨拶をする場合は、その場を去っていく人とその場に残る人とで表現の区別なく「さようなら」という共通の表現を用いることが出来ます。それとは対照的に、アイヌ語では去っていく人が言う pirka no okay yan と残る人が言う yayoutpare no hosippa yan は使い分ける必要があります。この点に関する限り、アイヌ語は韓国語と発想が似ているように見えます。韓国語でも、その場を去っていく人とその場に残る人との両方が使える「さようなら」という共通の表現はありません(但し、略式では annyeon アンニョンという表現がそのような共通の表現として用いることが出来ます)。その場を去っていく人は annyeonhi gesibsio アンニョンヒケーシシオ(または annyeonhi geseyo アンニョンヒケセヨ) その場に残る人は annyeonhi gasibsio アンニョンヒカシシオ(または annyeonhi gaseyo アンニョンヒカセヨ)という表現を用います。

MEMO

📖 今日の単語

ekota エコタ【副詞・助詞】そこへ、～へ。; an=kosikiru kor(そこに向かいながら)

hosipi ホシビ【自動詞】帰る、戻る。; an=kor cise ene oman=an, or ta hoski no an=an hi ta oman=an(自分の家に行く、元いた場所に行く)

hosippa ホシッパ【自動詞】(複数の人が)帰る、戻る。; an=kor cise ene paye=an, or ta hoski no okay=an hi ta paye=an(自分の家に行く、元いた場所に行く)

okay オカイ【自動詞】ある、いる、暮らす、あらわれる。;(反 isam; 単 an); katu kor, tum kor(姿が持つ、体を持つ)

totetek トーテック【自動詞】元気である。; pirka no an=an, siyeye an=sak(元気でいる、病気ではない)

yayoutpare ヤイトゥパレ【自動詞】元気である・になる、健康である・になる。; siyeye an=sak(病気がない)

kampinuye 2 (tu): 指し示す(これ、あれ)

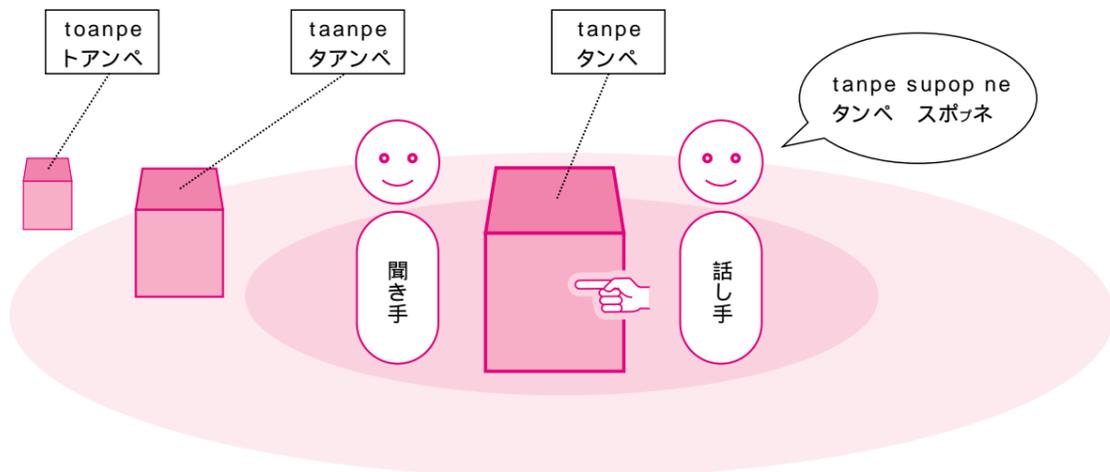
カンピヌイエ トゥ

A: tanpe cise ne ya? タンペ チセネヤ?	これは家ですか?
B: e. cise ne. エ チセネ	そうです。家です。
A: taanpe ka cise ne ya? タアンペカ チセネヤ?	あれも家ですか?
B: somo cise ne. ソモ チセネ	家ではありません。

学習の要点

1. tanpe, taanpe, toanpe

tanpe, taanpe, toanpeは、話し手が自分の身の回りのものを指で指し示すような場合に使われます。どれが用いられるかは、指し示すものが話し手と聞き手のいる場所(アイヌ語では「teテ」や「teorテオロ」で指し示される場所)の範囲内にあるかないか、外にあるとしたら比較的近いか遠いかについての話し手の判断に基づきます。



日本語の「これ、それ、あれ」と似ていますが、tanpe, taanpe, toanpeがそれぞれ「これ、それ、あれ」に対応するわけではありません。「あれ」は「それ」と同じくらいしばしば使われますが、toanpeはtaanpeほど頻繁には使われないようです。本当に遠いことを明確にする必要があるときに使われると考えた方が良いでしょう。

2. somo

somoは、動詞の意味を否定するのに使われます。日本語の「(～し)ない」と同様な意味や機能を持ちますが、動詞の前に位置することに注意して下さい。

cise somo ne	● cise ne somo	(それは)家ではない。
somo oman	● oman somo	(彼・彼女は)行かない、行かなかった。
somo ek	● ek somo	(彼・彼女は)来ない、来なかった。

今日の構文

名詞句... + 名詞句~ + ne: ...が~である、...が~になる

既に前の発話で表現されているかあるいは文脈から明らかでない時、「~が」に当たる一つ目の名詞句はしばしば表現されません。その場合、日本語では「それ(ら)」は「程度」の言葉が用いられますが、アイヌ語ではその必要がありません。これは他の動詞についても当てはまることで、「~が」に当たる名詞句が表現されていない時には大抵このことが当てはまります。

・cise ne(それは)家です。

文化的背景

ciseチセは、アイヌ式の伝統的な家で丈夫な丸太で骨組みを組んで、葦などで壁や屋根を葺いて作られるのが一般的です。しかし、旭川を含む上川地方では壁を葺くのにuras(熊笹)を用いる点が、北海道の南西地域と著しく異なります。それ以外は、北海道のどの地方でも概ね同様な構造で作られていたようです。詳しくは第2期以降の文化的背景の項のciseを扱う項を参照下さい。

なおcの綴りは、アイヌ語表記に用いられる際、日本語の「ちゃ、ちゅ、ちょ」という音節の頭に立つ子音を表します。ca, ce, ci, co, cuの綴りで「ちゃ、ちえ、ち、ちょ、ちゅ」と発音します。そのため、ciseはチセであってシセやスイセではないことに注意して下さい。

言葉をもっと詳しく

tanpe, taanpe, toanpeは、それぞれtan(手許の)、taan(近くの)、toan(遠くの)に-pe(もの)が付くことで出来上がっています。これらに見られるte-(ここ)、ta-(ここに、このように)、to(あそこに、あのよう)は語構成要素で、teor(ここ)、tane(今)やtaa(あのよう)、too(ずっと、遠くに)などの要素としても見られます。

taaやtooはta, toの母音を伸ばすことで意味を更に強める用法に由来するかもしれません。似たような表現方法は「さむーい(寒い)」や「あったかーい(暖かい)」のような日本語の表現にも見られます。それを裏付けるものとして、toanと同様な意味でtaaaanという例もまれですが資料に見られます。

日本語の「これ、それ、あれ」は話し手から近いもの、中くらいの距離のもの、遠いものを指し分ける機能を持つと考えられたことから、近称、中称、遠称など呼んで区別されることがあります。アイヌ語では、近称は区別されますが中称と遠称の区別は日本語の場合ほどされないということかもしれません。けれども、これは何も驚くことではなく、英語でも中国語でも通常「近称」(英this; 中zhè)とそれ以外(英that; 中nà,nèige)が区別されるだけで、いわゆる中称と遠称の区別はないようです。

MEMO

今日の単語

eエ【間投詞】はい、そうです。; ese=an hi ta an=ye itak(承諾する時に言う言葉)

neネ【他動詞】~が~である、~が~になる。; [nep¹ nep²+][何か¹][何か²]である、[何か¹][何か²]になる: toanpe pu neあれは倉庫だ。; [nep¹ nep²+][nepka¹ newa nepka² sinep ne, nepka¹ nepka² ne yaykar([何か¹何か²+][何か¹と何か²は同じだ、何か¹が自分を何か²にする)]

somoソモ【副詞】~ない。; [+動詞][~し]ない。; [方言ノート]他の多くの方言でもsomoが用いられるが、静内や三石などではhenne, homoが用いられるらしい。; [+iki] iki hi ka isam([+そうである・そうする]そうであること・そうすることがない)

taanpeタアンペ【代名詞】それ、あれ。; 話し手と聞き手のいる場所(「teテ」や「teorテオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(toanpeとの対比で)比較的近いと話し手が思うもの。(反tanpe, toanpe); "te, teor" soyke ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an pe (toanpe akkari hankeno an pe)(「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの[taanよりも遠くにあるもの])

tanpeタンペ【代名詞】これ。; 話し手と聞き手のいる場所(「teテ」や「teorテオロ」で指し示される場所)の中にあるもの。(反taanpe, toanpe); "te, teor" ta an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi ta an pe(「ここ」にあるもの、話し手と聞き手のいるところにあるもの)

toanpeトアンペ【代名詞】あれ。; 話し手と聞き手のいる場所(「teテ」や「teorテオロ」で指し示される場所)の外にあるもの。(taanpeとの対比で)比較的遠いと話し手が思うもの。(反tanpe, taanpe); "te, teor" soyke ta an ruwe ne kor tuymano an pe, or ta itak kur inu kur tura an hi soyke ta an ruwe ne kor tuymano an pe (taanpeakkari tuymano an pe)(「ここ」の外にあるもの、話し手と聞き手のいるところの外にあるもの[taanよりも遠くにあるもの])

urasウラッ【名詞】ささ、熊笹。; cise tumam cise oson ekota an=tese kina, an=ecisekar pe ene an=ye korka toy or wa etuk pe anak "hutta" sekor an=ye(家の壁、屋根に編むつける草、家の材料としてはこう呼ぶが、地面に生えているものはhuttaと言う)

kampinuye 3 (re): 尋ねる(～かどうか)

カンピヌイエ レ

A: tanpe ka cise ne ya? cise somo ne ya? タンペカチセネヤ? チセソモネヤ?	これも家ですか。家ではありませんか?
B: somo. pu ne. ソモ プネ	違います。倉庫です。
A: nep ka ne oske ta an ya? ネッカ ネオスケタ アンヤ	何か中にありますか?
B: ekota oman wa ehewpa ya. エコタ オマンワ エヘウパヤ	行って覗いてみてください。

学習の要点

1. ka
kaはしばしば日本語の「も」に当たる働きをしますが、nep(何), nen(だれ)などの疑問に用いられる語の後に付くと「か」に当たる働きをすることもあります。従って、nep ka, nen kaは「何か」、「誰か」と「何も」、「誰も」の両方の解釈があります。

[~ ka](既に表現されたものに上に加えて) ~も: tanpe ka taanpe kaこれも、それも。; [nep(何), nen(だれ)などの疑問表現 + ka + 否定表現]何も・誰も ~ない: nep ka isam何もありません。
[nep(何), nen(だれ)などの疑問表現 + ka + 肯定表現]何か・誰か ~ : nep ka an何かがある。

2. somo
somoが動詞の意味を否定するのに使われることをkampinuye 2で学びました。同じ形の語が、「いいえ」や「違います」の意味の間投詞としても使われます。副詞のsomoは必ず修飾する動詞と共に用いられるのに対して、間投詞のsomoは単独で用いられる点が異なります。なお、「はい」や「そうです」はやはりkampinuye 2の本文に出てきたeを用います。

A : tanpe cise ne ya? これは家ですか?
B : e. cise ne. はい。家です。
B' : somo. pu ne. いいえ。倉庫です。
B'' : somo cise ne. 家ではありません。

3. ya
yaは、(1)「～しますか、～ですか」のような疑問を表現したり、または(2)「～して下さい」のような提案または依頼を表現したりするために文末で用いられます。

tanpe ka cise ne ya? これも家ですか?(疑問)
cise somo ne ya? (それは)家ではありませんか?(疑問)
ehewpa ya 覗いてください(提案)

今日の構文

名詞句... + 場所名詞句 ~ + ta an/okay : ...が～にある・いる、...が～にたくさんある・いる
「ある・いる」といった存在または「住む・暮らす」のような生存を表す基本的な表現は、anです。漠然と沢山の物ないしは人が存在する場合はokayを用います。このことから、okayはしばしばanの複数形として扱われることがあります。
cise oske ta sine aynu an 家の中に一人の人が(住んで)いる。
cise oske ta aynu utar okay 家の中に何人もの人が(住んで)いる。

文化的背景

puブは、アイヌ式の伝統的な倉庫でciseと同様に丈夫な丸太で骨組みを組んで、葦などで壁や屋根を葺いて作られます。ciseとは明らかに大きさも違いますが、第一に物を保存しておく倉庫本体の部分が丸太で脚を組んだ上に位置づけられていわゆる高床式の構造を取る点が異なります。これは、食料などを保存しておいた場合にネズミなどの動物に食い荒らされないための工夫で、古い時代には日本でも朝鮮半島でも見られた様式です。類似した構造は、現在でも東南アジアなどの諸地域で観察されるようです。

言葉をもう少し詳しく

yaが疑問や提案または依頼を表現するために用いられることを紹介しました。(1)疑問は「文の意味する状況が成立するかどうかを話し手が尋ねること」、(2)提案・依頼は「文の意味する状況を聞き手が成立させるように話し手が提案または依頼すること」に該当します。どちらも、「文の意味する状況の成立することを話し手がまだ確認できていない」という点で共通しています。従って、yaは「文の意味する状況の成立が未確認であること」を表す表現として一般的に特徴付けることができます。

tanpe ka cise ne ya? これも家ですか?(家かどうか話し手は未確認)
cise somo ne ya? (それは)家ではありませんか?(家ではないかどうか話し手は未確認)
ehewpa ya 覗いてください(聞き手が覗くという動作は未確認)
この説明を裏付けるものとして、内容が未確認であることを表すeramuskareやerampetek(～が分からない)の前でもyaが用いられやすいことを指摘することができます。
nekon iki ya ka eramuskare/erampetek(彼は)自分がどうしたのかわからなかった

MEMO

今日の単語

- anアン【自動詞】ある、いる、暮らす、あられる。(反isam; 複okay); katu kor, tum kor(姿がを持つ、体を持つ)
- ehewpaエヘウパ【自動詞】～を覗く。; nep ka oske ne inkar=an(～の中を見る)
- ekotaエコタ【副詞・助詞】そこへ、～へ。; an=kosikiru kor(そこに向かいながら)
- nepネッ【名詞】何、何か。; 通常は人間以外のものの素性を問う表現だが、時にnep ka「何か・何も」と同様の意味で用いられる: nep an=e rusuy nep an=kor rusuy pe isam食べたい、欲しいものは何もない。; nekon an pe(どのようなもの)
- neネ【形容詞】その。既に前の文脈で表現された。; hoski no an=ye(前に言われた)
- okayオカイ【自動詞】ある、いる、暮らす、あられる。(反isam; 単an); katu kor, tum kor(姿がを持つ、体を持つ)
- oskeオスケ【場所名詞】その中、～の中。; onnay, (そこに向かいながら)
- puブ【名詞】倉庫。; onnay ta usa okay pe an=omare pon cise, ciekunip usa an pe an=anu hi(中にいろいろなものを入れる小さな家、食べ物などを置くところ)
- somoソモ【間投詞】いいえ、違います。; somo ese=an hi ta an=ye itak(承諾しない時に言う言葉)
- taタ【助詞】～に。; [場所名詞・位置名詞 +] ~に、～で。; oma wa(～にあって、～にいて)
- yaヤ【文末詞】～しますか、～して下さい。; [文 +] [~し] ますか、「～して」下さい。; an=erampetek pe usa an=eramuskarep usa nen ka an=ekopis hi ta ikopis itak kes ta an=anu p(分からないこと知らないことを誰かに尋ねる時、尋ねる言葉の最後につける言葉)

kampinuye 4 (ine) : 尋ねる(何、だれ)

カンピヌイエ イネ

A: tanpe nep ta an? tanpe ka cise ne ya? タンペネタアン? タンペチセネヤ?	これは何ですか。これも家ですか。
B: somo. pu ne. ソモ プネ	違います。倉庫です。
A: ne oske ta nep ka an ruwe? ネオスケタ ネッカ アンルウェ	中に何かあるんですか?
B: ehewpa ya. nep ka isam. エヘウバヤ ネッカ イサム	覗いてみて下さい。何もありませんよ。

学習の要点

1. ne (, nean)
kampinuye 2ではtanpe, taanpe, toanpeが「話し手が自分の身の回りのものを指して指し示すような場合に使われる」ことを学びました。それぞれに含まれるtan, taan, toanという要素がそのように具体的な身の回りのものを指し示すのに用いられる表現です。ne, neanも「その」と訳されることがありますが、このように具体的な身の回りのものを指し示すのではなく「話し手または聞き手が既に言葉にした内容(の一部)を指す」のに用いられます。ですから、「今言った～」、「さっき話した～」という意味での「その」であることに注意してください。ne oske ta nep ka an ruwe?のneは、すぐ前に言われたpuを指して「その」と言っているのです。

2. nep (, nen, ney, hempar, nekon)
「ある時にある場所である人があることをした」と分かっているものの、例えばその「ある場所」あるいは「ある人」にあたる存在が何であったかがはっきりしないときに用いられるのがnep「何」、nen「だれ」、ney「どこ・いつ」、hempar「いつ」、nekon「どう」といった表現です。

nen ek?	だれが来た?
nekon an kur ek?	だれが来た?
huci ney ta an?	おばあちゃんはどこに住んでる?
hempar huci ek?	いつおばあちゃん来る?

3. ruwe, ruwe a
日本語では、「文で表現される内容を話し手ないしは聞き手が既に認識して知識の一部としている」ことを伝えるのに「～んです」や「～んですか」が用いられます。「～ます」、「～ますか」が用いられる場合は、このようなことを前提としない場合に用いられる表現です。これと類似した機能をアイヌ語で果たするのがruweとruwe aです。

tanpe cise ne.	これは家です。(平叙文)
tanpe cise ne ruwe ne.	これは家ですよ。(平叙文)
ne oske ta nep ka an?	中に何かありますか?(疑問文)
ne oske ta nep ka an ruwe a?	中に何かあるんですか。(疑問文)

平叙文(述べる文)ではruwe、疑問文ではruweとruwe aの両方が用いられます。

今日の構文

nep ta an? : 何ですか?
「～です」にあたる動詞はkampinuye 2で学んだとおりneですから、「なんですか」という文はnep ne ya?となりそうです。けれども、そのような表現は資料には見られません。実は、nep ta an?の形も手許の資料を見る限り見つかりません。そこで、旭川アイヌ語教室では沙流方言などでのhemanta anの形に倣ってnep ta an?という形を用いています。これは、沙流方言でhemanta kusu(なぜ)と言うところを旭川ではnep ta kusu(なぜ)と言うことからの類推です。
第一期の後半で親しみを込めた略式の言葉遣いを学ぶ際に取り上げますが、日常的にはnepe a?が用いられるそうです。ですから、アイヌ語が広く用いられた時代にタイムマシンが何かで行って、tanpe nep ta an?などと質問したら、“tanpe nep ta an” nepe a?(「タンペネタアン」って何だ?)と訝られるかもしれません。けれども、第一期の前半は比較的正式な言い回しを学習目標とするため、nep ta anという言葉は「造られた」表現を用いることにします。

因みに、相手の言ったことを聞き返すのに用いられる「何だ、何ですか」にnekon ta?やnekon ta ne?があります。これは、沙流方言でのmakanak ta(何、どうしたって)、makanakne(何だ)、千歳方言のhemanta ta(何だって)に対応するようですが、旭川では一部に「これは何だ」の意味で用いられているかに見える例もあります。この表現の実際の用法については今後も調査の必要がありそうです。

tanpe nep ta an?これは何ですか? tanpe nepe a? これ何?

文化的背景

nep ta anは文字通りには(何・こそ・ある)で、tanpe(これ)を加えてtanpe nep ta an?(これは、何がありますか)と言うのは本来不適切かもしれません。そもそも、アイヌ語では「これは」と「何ですか」の両方が一緒に表現されている例を探すことが困難なようです。既刊のアイヌ語の辞典で「何」にあたる語を探しても、tanpe(これは)を伴う例は見当たりません。わずかに、神保小虎・金澤庄三郎『アイヌ語会話辞典』にのみtambe hemanda an?(=tanpe hemanta an?)の形が見つかる程度です。日本語の「これは、何ですか」という言い方そのものがアイヌ語には相応しくないのかもしれませんが、このような状況は、日本語と外国語で名前を尋ねる時に使われる疑問文を考えると理解しやすいかもしれません。日本語では、「お名前は何ですか」も可能ですが「お名前は何かおっしゃいますか?」の方が伝統的な言い方かもしれません。それに対して、英語ではWhat is your name?「あなたの名前は何かですか?」で、「お名前は何かおっしゃいますか?」のように「言う」という発想はしません。一方フランス語ではComment vous appelez-vous?で「あなたは自分自身を何と呼びますか?」あるいは「あなたはどう呼ばれますか?」のようになりますし、ロシア語ではKak vas zavut?で「人はあなたを何と呼びますか?」のようになります。「これは、何ですか」という場合に「これは」という具体的な要素をアイヌ語に加えようとするのは、ちょうど英語・フランス語・ロシア語で名前を質問するときに「言う」という要素を無理やり入れようすることに似ているかもしれません。

言葉をもう少し詳しく

kampinuye 3 学習の要点2で、nep「何」、nen「だれ」にkaが付くと「何か、だれか」のような解釈と「何も、だれも」のような解釈の両方の可能性があることを学びました。ney「どこ・いつ」、hempar「いつ」、nekon「どう」の場合、そのような解釈には制限があるようです。次に例を挙げたとおりhempar ka、nekonには「いつか」、「どうにか」の解釈はありますが、「いつも」、「どうにも」の解釈はないようです。ney kaという形は資料に見られませんが、「～も」の意味を表すためには、通例ne yakka(～であっても)やyakka(～しても)と共に用いられます。

hempar ka	(未来を指して)いつか	ney ne yakka	どこでも
nekon ka iki wa	どうにかして	nekon iki yakka(彼が)	どうやっても

MEMO

今日の単語

- ek エク【自動詞】来る。話し手と聞き手のいる場所に近づく移動をする。; or ta itak kur newa inu kur okay hi kohanke(話し手と聞き手のいるところへ近づく)
- hempar ヘンバラ【副詞】いつ。出来事や状態が成立した時点がを問う。; nekon an icicikan ta(どんな時間に)
- nekon ネコン【副詞】どう、どのように。; [nekon anの形で]どんな、どのような。; nep neno(何のように)
- nen ネン【名詞】だれ、だれか。; nekon an kur(どんな人)
- ney ネイ【場所名詞】どこ、どこか。; [ney paknoで]いつも、いつまでも。; nekon an hi(どんな場所・時)

kampinuye 5 (asikne) : 比べる(～のよう、同じ、違う)

カンピヌイエ アシクネ

A: tanpe cise ne ya? タンペ チセネヤ?	これは、家ですか？
B: cise ne. teeta Cikapuni kotan ta okay aynu utar チセネ テエタ チカブニコタンタ オカイ アイヌウタ tanpe neno an uras cise kar wa okay. タンペネノアン ウラシチセ カワ オカイ	家です。昔、この近文の集落に住んでいたアイヌ達は このような笹葺きの家を作って暮らしていました。
A: uras cise? oya kotan ta ene an cise isam. ウラシチセ? オヤコタンタ エネアンチセイサム	他の集落にはこんな家はありません。

学習の要点

1. ene, neno, nekon
eneもnenomも「このように、そのように」という訳が与えられます。nekonはそのような内容を尋ねるのに用いられて「どう、どのように」と訳されます。eneには第二期以降で取り上げることになる独特の豊かな用法がありますが、ここでは「(自分の思い描いていることを指して)こう、そう、ああ」という意味を持つ表現として捉えることにしましょう。従って、ene anの形では「こんな、そんな、あんな」という名詞修飾句を形成することになります。それに対して、nenoneという要素はkampinuye 4 学習の要点1で学んだne(前で言われたことを指して それ)なので、nenoneは「(前で言われたことを指して)そのように」、nenone anは「(前で言われたことを指して)そんな、そのような」という意味になります。nekonは「どのように」なので、nekon anで「どんな、どのような」という意味の名詞修飾句として働きます。

ene an cise isam. (自分の思い描いていることを指して)こんな家はありません。
nenone an cise isam. (前で言われたことを指して)そんな家はありません。
nekon an cise an ya? どんな家がありますか？

またnenoneには、本文にあるように、すぐ前に名詞の伴う助詞としての用法もあります。この場合、すぐ前の名詞の内容が「前で言われたこと」に相当すると考えれば、nenoneが単独で用いられる副詞としての用法と本質的には違いがありません。

tanpe neno an uras cise このような(これのような)笹葺きの家。

2. oya (, sine, uneno an, ueoyakno an)
oyaは「もう一つの、次の」くらいの意味を持つ語であることから、「他の、よその、違う」という意味でも用いられます。同じように、sine(一つの)は「同一の、同じの」の意味でも用いられます。また、複数の主語を取って「同じ」、「違う」という場合にはそれぞれuneno anとueoyakno anが用いられるようです。

oya pa 来年(もう一つの年、次の年)
sine itak patek ye kor an 同じ(一つの)ことばかり言っている。
tanpe tanokaype uneno an これらは同じです。
tanpe tanokaype ueoyakno an これらは違います。

今日の構文

動詞句... + wa + 動詞句~ : ...して~する、...してから~する

動詞句を結ぶwaは前の動詞句の意味する出来事が済んでから後の動詞句の意味する出来事が生じるという関係を表す働きをします。それに対してwaの代わりにkorを使うと前の動詞句の意味する出来事が済む前に、つまりその出来事の継続中に後の動詞句の意味する出来事が生じることを表します。

cise kar wa okay (彼らは)家を作って(から)暮らした。
cise kar kor okay (彼らは)家を作りながら暮らした。

文化的背景

Cikapuni kotan
現在、川村カネトアイヌ記念館がある辺りに大きなアイヌ集落があり、その呼び名がこのCikapuni kotanでした。このcikapuniは、『知里真志保著作集3: アイヌ生活誌・民俗学編』所収の「上川郡アイヌ語地名解」によれば「近文山の川に臨んだ山面に大きな岩があり、いつも鷹が止まっていたのでこの名がついた」という。音訳して「ちかぶみ」(近文)という地名が生まれ、意識して「たかす」(鷹栖)という地名が生まれた」とあります。ここで「近文山」と書かれているのは、Cikapuni nupuri(一説によると現在「嵐山」と呼ばれる山のこと)で、ここにもcikapuniという要素が使われています。鷹栖という地名は鷹栖町として存在しますが、旭川市内北西部にもあります(旭川に合併された東鷹栖村に由来)ことからこの辺りの広い地域を指していたのかもしれない。

言葉をもう少し詳しく

oya (, sine, uneno an, ueoyakno an)
「同じこと」、「違うこと」は、そもそも「一つであること」、「もう一つであること、次であること」と関係があるかもしれませんが。今日の学習の要点2でも学びましたが、「一つのことばかり言っている」はとりもおさず「同じことばかり言っている」ことに相当します。日本語で「一つ」という言葉が「同じ」という意味を表現する頻度はアイヌ語に比べて低いかもしれませんが、「一つ屋根の下で暮らす」といえば「同じ家で暮らす」という意味です。更に他の外国語を見渡して見ると、このような関係は案外突飛なことではなく見えてきます。英語でtwo girls with a name(一つの名前を持つ二人の少女)と言えば「同じ名前の二人の少女」という意味で解釈されるのが普通です。また、英語のother(他の)という語は本来first(first), other(second), thryd(third)のように序数として用いられていたもので、「次の、二番目の」という意味から「他の、別の」という意味が発達しました。しまいには「次の」という意味はnextという語に、「二番目の」という意味はsecondという語に取られてしまって、今ではotherが「次の、二番目の」という解釈を与えられることは殆どなくなりました。

今日の単語

Cikapuniチカブニ【場所名詞】近文、旭川。(類Asankar); Iskarpet turas oman=an kor kamuy kotan yak an=ye hi an wa ne peni ta an kotan, tane Asankar sekor an re an=kore wa an(石狩川を遡っていくとカムイコタンというところがあって、その川上にある村。)

eneエネ【副詞】こう、そう、ああ。;(自分の思い描いていることを指して)こう、そう、ああ。;[ene anの形で]こんな、そんな、あんな。;an=eramu p neno an(考えているような)

isamイサム【自動詞】ない、いない、なくなる、いなくなる、亡くなる。(反an, okay); katu sak, tum sak(姿がない、体がない)

karカ【他動詞】~を作る、~をする。;monrayke=an wa nep ka an=ante(努力して何かを現れさせる)

korコ【接続助詞】~しながら、~しつつ。;[動詞+kor anの形で][~し]ている、[~し]ているところだ。;kane(~の途上)

kotanコタン【場所名詞】村、集落、町。;or ta aynu cise kar wa okay hi(人が家を作り住むところ)

nenoneノ【副詞・助詞】そのような、~のような。;[単独で用いられて](前で言われたことを指して)そのように。[名詞+]~のように。;[nenone anの形で]そのような、~のような。;hoski no an=ye p ye kor "taa"(既に言われたことに触れながら「こう」)

oyaオヤ【形容詞】別の、よその。;soy ta an(外にある)

teetaテエタ【名詞】昔。(反tane); husko toy(古い昔)

utarウタ【名詞】仲間、同族、~たち。;[単独で時にutariの形で]仲間、同族。[名詞+]~たち。;sine sinrit kor pe(同じ先祖を持つ者)

waワ【接続助詞】~して、~してから。;[動詞+wa anの形で][既に~し]ている、[~し]てある。;kane(~の途上)

kampinuye 6 (iwan) : 取り立てる(～は、～ばかり)

カンピヌイエ イワン

- A: uras cise? oya kotan ta ene an cise isam. 笹葺きの家？他の集落にはこんな家はありません。
 ウラッチセ？ オヤコタンタ エネアンチセイサム
- B: teeta wa no te ta anakne tanpe neno an 昔からここではこのような
 テエタワノ テタアナッネ タンベネノアン
- uras cise patek an ru ne. tanpe nukar_ya 笹葺きの家ばかりでした。これを見て下さい。
 ウラッチセパテッ アンルネ タンベヌカラ

👉 学習の要点

1. anakne, anak

anakneはしばしば日本語の「は」に当たる働きをしますが、「は」ほど頻繁には用いられないようです。「は」には話題ないしは主題を導入する機能と対照される要素を取り立てる機能の二つがあると考えられています。anakneは、文脈に応じてどちらの働きもすることがあるように見えますが、実際にどんな機能を果たしているのかはまだ分かっていません。

hampe anakne sonno isounkur ne. 父は、本当に獺の名手でした。(話題・主題)
 te wa no anak nep ka an=eranak pe ka isam (以前は違ったけれども)これからは何も心配ない。(対照)

anakは、anakneよりも早口で話したり、話題・主題導入や対照要素の明示化といった機能がそれほど意識されない場合に使われる傾向にあって、基本的にはanakneと大きく異なることはないようです。

2. patek

patekには、(1)前に名詞を伴って「～だけ、～ばかり」という意味を持つ助詞としての用法と(2)単独で用いられて「(前の発話を受けて)それだけ、そればかり」という意味を持つ副詞としての用法があります。

sine itak patek ye kor an 同じことばかり言っている。

一つ注意が必要なのは、日本語で「～だけ」と類似した表現に「～しかない」がありますが、アイヌ語ではこれらの区別はせずpatekで表現されます。ですから、patek anは「それだけです」と「それしかありません」のどちらのにもなり得ます

uras cise patek an 笹葺きの家ばかりです。
 笹葺きの家しかありません。

3. ru ne, ruwe ne

日本語の「～んです」や「～んですか」に似た働きとして、「文で表現される内容を話し手ないしは聞き手が既に認識している、自分の知識の一部としている」ことを伝えるのにruweとruwe aが用いられることをkampinuye 4 学習の要点3で学びました。ru ne, ruwe neも同様な機能を果たしますが、これらは大概平叙文でも用いられ、「文で表現される内容を話し手が既に認識している、自分の知識の一部としている」ことを表します。

tanpe cise ne ru ne. これは家ですよ。
 tanpe cise ne ruwe ne. これは家ですよ。

👉 今日の構文

名詞句+他動詞+ ya/yan : ～をして下さい(依頼文)

yaは、(1)「～しますか、～ですか」のような疑問を表現したり、または(2)「～して下さい」のような提案または依頼を表現したりするために文末で用いられることをkampinuy 2 学習の要点3で学びました。この(2)の機能に更に丁寧さが加わった表現としてyanがあります。

tanpe nukar_ya これを見て下さい。
 tanpe nukar_yan これを見て下さいませ。

yaは一人の聞き手に対して用い、yanは複数の聞き手に対して用いるという区別があるという説明もされていますが、資料を観察する限り事実がどうであったかははっきりしません。

なお、yaと異なりyanには疑問文を表現する用法はないことに注意してください。

📁 文化的背景

ru ne, ruwe neに意味と機能の上での大きな違いは認められませんが、興味深いことにある程度の地域差を反映しているようです。本講座で旭川方言として扱われるのは、石狩川中流域から上流域にかけての言葉で、この流域の中間に位置するカムイコタンから下流の空知方言とそれより上流の上川方言に下位区分されます。これら下位方言での目立った特徴の一つとしてru neとruwe neの違いが挙げられます。それぞれの方言圏に住む人々は互いの言葉をpaniunkur iporse(川下の者の言葉:空知方言) peniunkur iporse(川上の者言葉:上川方言)と呼び、上川方言ではru unが、ruwe neがより頻繁に用いられることを意識していたようです。このような方言上の差異はそれぞれの地域のアイデンティティーを象徴するものであったのか、些細な違いでも想像以上に注意を払っていたようです。そのため、川下から川上へあるいはその反対に移り住んだものは行った先の言葉を使うよう強く勧められたり、元の地方の言葉をあからさまに使い続けると、たしなめられたりもしたものだそうです。

🔍 言葉をもう少し詳しく

anakne, anakはan(ある)+yak/yakne(なら)に由来する形式です。そのため、音としてあるいは綴りとしてanakne, anakとなっていたとしても、依然としてanとyak/yakneがそれぞれ独立した意味と機能を果たしている場合がしばしばあるので注意が必要です。例えば、nisatta anは「明日になる」という意味で、このanの後にyak, yakneが続いて全体として「明日になったら」という意味になることがあります。このような場合にnisatta anakne, nisatta anakを「明日は」と解釈してしまうと理解が困難になりかねません。

nisatta anakne 夜が明けたら(=nisatta an yakne)
 oya pa anakne 次の年になったら(=oya pa an yakne)

yakの後にanak, anakneが続いてyakanak, yakanakneなどという形になる場合もあります。そのような場合は、yak(なら)という条件の意味を更に取り立てて「～ならば、～たらば」のような言わば冗長なかしこまった表現となっていると考えられます。

MEMO

📖 今日の単語

itak イタク【自動詞】話す、語る。; nep ka ye(何か言う);【名詞】言葉、話。; an=ye p(言われたこと)
 katu kor, tum kor(姿を持つ、体を持つ)

noノ【副詞・副詞語尾】～に、～く、～して。; [自動詞+]副詞化する。[助詞+]語調を整える; ruwe ne kor(～であり)

nukarヌカ=【他動詞】～を見る。; ekota inkar=an, an=sikkuste(～に目を遣る、～に目を通す)

teテ【場所名詞】ここ。; 話し手のいる場所。; or ta itak kur an hi

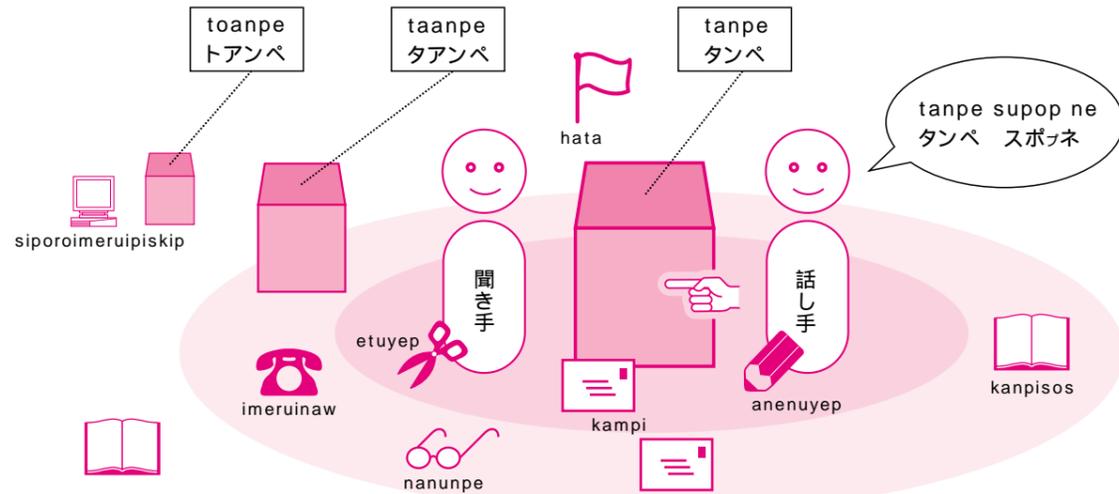
waワ【助詞】～から。; [場所名詞・位置名詞+]～から、(特定の表現で)～に、～で。; soyke ene(～の外へ)

kampinuye 7 (arwan): 練習問題(1)

カンピヌイエ アラワン

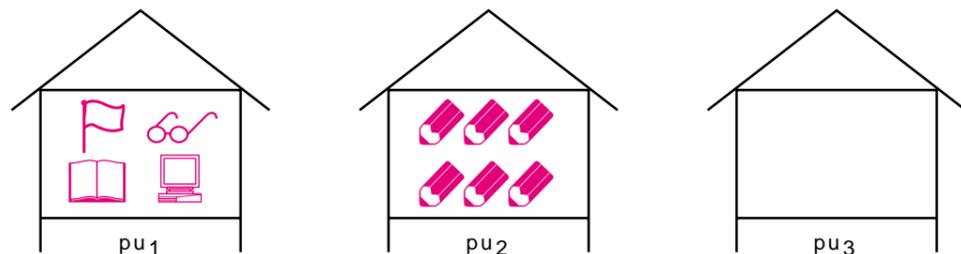
復習の要点

1. 「これ/それ/あれは、...です。」「~も...」, 「...じゃありません、...ですか?」



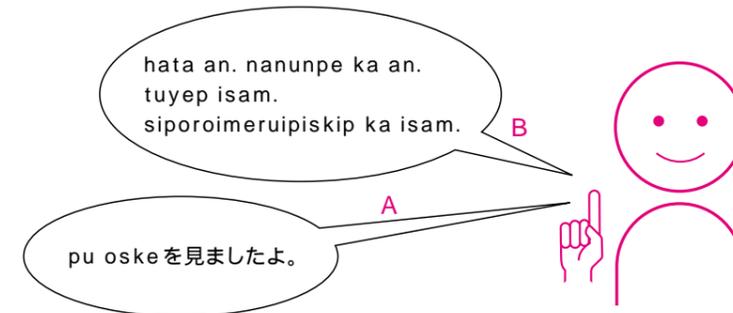
- 指でさしながら「~は...です」という表現を言ってみましょう。(2-1, 2-構文)
(例) tanpe nanunpe ne. (これはメガネです)。
- 同じものをさして「~も」を使ってみましょう(2つあります)。(3-1)
(例) tanpe etuyep ne. taanpe ka etuyep ne.
- 似たものを取り上げて、一方は他方ではないことを伝えましょう。(2-2)
(例) (電話を指して) tanpe siporoimeruipiski somo ne.
- 何であるか改めて確認してみましょう。(3-3)
(例) tanpe kanpisis ne ya? tanpe kampi somo ne ya?
- (1)~(4)で使った表現以外にも、上で描かれた絵を使って、色々な表現を作ってみましょう。
また、「何ですか?」という表現を使って、別の人にもものを聞いてみてください。(4-構文)

2. 「~に...があります」、「...しかありません」、「何か/何も...」



- pu1の中 (pu oske) に何があるか表現してみましょう。(ヒント: 「~に...があります。」) (3-構文)
(例) pu oske ta etuyep an.
- 「何かありますか?」といえるように練習しましょう。(3-1, 3-構文, 4-2)
- pu2の中に何があるか表現してみましょう。(ヒント: 「~しかありません。」) (6-2)
- pu3の中に何があるか表現してみましょう。(ヒント: 「何も~。」) (3-1, 4-2)

3. 「どんな/こんな/そんな~」、「~んです(か?)」、「はい。いいえ。」「~は...」、「別の...」



- 田中君は、(A)で、puの中を見たと言っています。中に何があったか聞いてみましょう。
「~に、~はありますか?」という表現で聞いてください。(3-構文, 4-1)
(ヒント) 「(その)puの中に、...はありますか?」
- 中に何があるのか聞いた結果が(B)です。何があるか自体は分かりましたが、詳しく分かりません。
もう少し説明してもらいましょう。(5-1, 6-構文)
(ヒント) 「(その)puの中に、どんな...がありますか?」「話してください」
- 下の絵を使って確認してください。(5-1)
(ヒント) 「こんな...ですか?」



- 下の絵のものが本当にはないか確認してください。(4-3)
(ヒント) 「puの中に...は無いんですか?」



- 今度は田中君の立場になって答えてみましょう。(3)の答えとして、
「はい。~」、「いいえ。~」と答えてみてください。(3-2, 4-1, 5-2)
(ヒント) 「はい。そんな...です」/「いいえ。そんな...ではありません」/「いいえ。別の...です」
- 次に(4)の答えとして、本当に無いことを伝えましょう。
また、対照させるために「...は~」という表現を作ってみましょう。(6-1, 6-3)
(ヒント) 「はい。...は無いんですよ。」

4. 「~しながら...」、「~してから...」、「~ばかりしている」

「話す(itak)」、「来る(ek)」、「それを作る(neanpe kar)」、「家を見る(cise kar)」、「倉庫の中を覗く(pu oske ene ehewpa)」

- 「~しながら...」という表現を使って、色々表現を組み合わせてください。(5-構文)
(例) 「それを作りながら話した」/「家を見ながら来た」
- 「~してから...」という表現を使って、色々表現を組み合わせてください。(5-構文)
(例) 「話してから来た」/「倉庫の中を覗いてから話した」
- 「~ばかりしている」という表現を作ってください。(6-2)
(例) 「家を見てばかりいる」/「それを作ってばかりいる」

kampinuye 8 (tupesan): 方向を示す(～に、～で、～から)

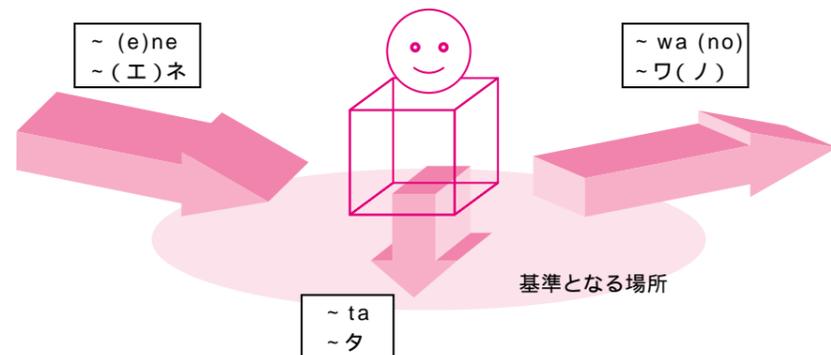
カンピヌイエ トゥペサン

A: huci an ruwe? フチアンルウェ?	ばあちゃんいる?
B: tane isam. sinewe kusu oman. タネイサム シネウェクスオマン	今いない。遊び行った。
A: ney ne oman ruwe a? ネイネオマンルウェア?	どこ行ったの?
B: Petcamun ekasi kor cise ekota oman. ペッチャムンエカシコッチセエコタオマン	川村のじいちゃん家(ち)行った。

学習の要点

1. (e)ne, ta, wa (no)

(e)ne, ta, wa (no)は、表現される行為に含まれる何らかの力が働く方向を表す助詞です。この方向は、基準となる場所(これらの助詞の前に位置する語が指す場所)との関係で定まります。ene(あるいはそれが約まってne)は、行為(しばしば移動)として発揮される力が「基準となる場所」へ近づく方向に働くことを表し、しばしば「～へ」と訳されます。wa(あるいは口調の関係でnoを加えてwa no)は、行為(しばしば移動)として発揮される力が「基準となる場所」から離れる方向に働くことを表し、しばしば「～から」と訳されます。一方taは、行為(しばしば「立つ、座る、寝る」などある姿勢を取る行為や「いる、暮らす」などある位置を占める行為)として発揮される力が「基準となる場所」の範囲内に働くことを表し、しばしば「～に、～で」と訳されます。



2. ekota

ekotaは意味と機能の上では、すぐ前で学んだe(ne)と似ています。前に名詞を取って「～へ」程度の意味を表します。けれども、この語はe(ne)と異なり単独でも用いることが出来る点に注意する必要があります。前に言及した場所を指してekota oman(そこへ行った)と言うことは出来ますが、ta ekotaとは言えません。

Cikapuni kotan ekota oman/Cikapuni kotan ene oman (彼は・彼女は)近文へ行った。
ekota oman/●ene oman (彼・彼女は)そこへ行った。

3. kor

korは二つの名詞句の前に伴って一つ目の名詞句の指すものが、二つ目の名詞句の指すものを持っていることを意味する表現です。多くの場合、この表現を用いて「～の～」という所有関係が表現されます。korは必ず意味上二つの要素と関係付けられますから、korの前に名詞句がなければ前で言及した人物を指して「その人の」という意味になります。

ne aynu poro cise korその人は大きな家を持っている。 ekasi kor ciseおじいちゃんの家
ekasi kor huciおじいちゃんのおばあちゃん kor huci彼・彼女のおばあちゃん

今日の構文

動詞句... + kusu + 動詞句... : ...するために～する(目的) ...するから～する(理由)

kusuは、動詞句に後続して(1)「～しに、～するために」といった意味の目的の表現、または(2)「～するので、～したので」といった意味の理由の表現を形成します。

huci sinewe kusu ek. おばあちゃんが遊びに来た。
pu an kusu ehewpa. 倉庫があったので(彼・彼女は)覗いた。

文化的背景

sihumnuyar

本文では、訪ねていった人が「ばあちゃんいる」と前置きなしに話し始めていますが、現代の生活で言えば玄関のチャイムを鳴らすか扉をノックするかして来訪を告げ、扉が開いた時点でこのような会話が交わされることになるでしょう。伝統的にはciseの入り口でsihumnuyarという来訪を告げる行為をしたようです。この語はsi-hum-nu-yar(自分・の音・を聞く・させる)という成り立ちで、咳払いをしたり、壁を叩いたり、冬であればかんじきどうしをぶつけたりして音を立てることを指します。同様な行為をsihawnuyar(自分・の声・を聞く・させる)やsimusiska(自分・むせる・させる)と言う地域もあるようです。この音や声を聞きつけて家の主は「どなたでもお入り下さい」ですとか、「招き入れるものがいまいませんからそのままお入り下さい」などと声を掛けたのだそうです。物語などでは、先ず少女が訪問者がどんな人かを見に出てきて、それを確認するともう一度家に入って主人に伝え、その後主人が「ここへ入りたくて来たものだから、人間なのか何なのか分からないが謹んで招き入れなさい」と少女に言って少女が訪問者を招きに改めて出てくるというような場面がしばしば描かれます。

言葉をもう少し詳しく

(e)ne, ta, wa (no)は、基準となる場所を表現する名詞句の後について、「その場所へ、その場所で、その場所から」という力の働く向きを表現することを学びました。この基準となる場所は、どんな名詞でも表現できるわけではないことに注意してください。前、後ろ、中、外、上、下などの位置関係を表す名詞やあるkotan, kimなどの特定の名詞、あるいは地名という限られた種類の名詞だけがこれらの前に立つことが出来ます。このような特別な名詞は位置名詞または場所名詞という種類に分類されます。これらの詳しい説明は、第二期以降にゆずることとしますが、これら特別な名詞以外は(e)ne, ta, wa (no)の前にじかに立つことが出来ないため、or(そこ)という位置名詞を間に挟まなければなりません。pu(倉庫)は普通の名詞ですから、「それ(前に言及されたもの)は倉庫にあります」という場合にneanpe pu ta anとはいえません。neanpe pu or ta anまたはneanpe pu oske ta anのように言わなければアイヌ語として不自然な表現となってしまいます。

neanpe pu ta an.
neanpe pu or ta an.

MEMO

今日の単語

ekasiエカシ【名詞】おじいさん、おじいちゃん。; rupne kur, caca(年寄り、じいさん)

huciフチ【名詞】おばあさん、おばあちゃん。; rupne mat(年を取った女)

korコロ【他動詞】～が～を持っている、～に～がある。; [nep¹ nep² +] [何か¹] が [何か²] を持っている、[何か²] が [何か¹] がある。(反sak); [nep¹ nep² +] nep ka² nep ka¹ or ta an([何か²] が [何か¹] がある。)

kusuクス【接続助詞】～なので、～だから。; [節+] [～する・した] ので、[～する・した] から。; [iki +] iki p

neanpeネアンペ【代名詞】それ。既に前の文脈で表現されたもの。; hoski no an=ye p(前に言われたもの)

neネ【助詞】～へ、～に。; [場所名詞・位置名詞+] ～へ、(移動先を表して)～に。; ekota(～へ)

omanオマン【自動詞】行く。話し手と聞き手のいる場所から遠ざかる移動をする。; or ta itak kur newa inu kur okay hi wa no tuyma(話し手と聞き手のいるところから遠くなる)

sineweシネウェ【自動詞】遊ぶ。; monrayke=an ka somo ki no an=kar rusuy pe an=kar(仕事をせずに、やりたいことをやる)

taneタネ【副詞】今、もう。; itak=an hi, nean hi ta(話している時、その時に)

kampinuye 9 (sinepesan) : 所在を伝える(～にある・いる)

カンピヌイエ シネベサン

A: huci ney ne oman ruwe a? フチネイネオマンルウェア?	ばあちゃんどこ行ったの?
B: Petcamun ekasi kor cise ekota oman. ペッチャムンエカシコッチセエコタオマン	川村のじいちゃん家(ち)行った。
A: Petcamun ekasi? nen ta an? ペッチャムンエカシ? ネンタアン?	川村のじいちゃん? それ、だれ?
B: ne ekasi anakne huci yupihi ne ruwe ne. ネエカシアナクネ フチユピヒネルウェネ	じいちゃんはね、ばあちゃんの兄さんのの。

学習の要点

1. un

unは、二つの要素を前提として(それらは多くの場合二つの名詞句として表現され)「～が...に本来的に存在する」が中心的な意味として働いているようです。二つの名詞を伴い得ることから他動詞だと思われませんが、名詞修飾句で使われる用例が大多数です。peniunkurのように「...に」という要素がunの前で表現されて「～が」の要素が修飾される名詞となる場合と、isounkurのように「～が」という要素がunの前で表現されて「...に」の要素が修飾される名詞となる場合の二つの可能性があることに注意してください。

iso-un-kur(獲物・が本来的にある・者)狩の名人
peni-un-kur(川上・に住む・もの)川上に住む者、川上の人

2. ney ne,

neyは「どこ」という意味の語であることをkampinuye 4 学習の要点2 で学びました。また、eneあるいはそれが約まってneは行為(しばしば移動)という力が基準となる場所に近づく方向に働くことを表し、しばしば「～へ」と訳されることをkampinuye 8 学習の要点1 で学びました。つまり、ney neは「どこへ」という表現となります。同様に、ney taは「どこに、どこで」、ney wa (no)は「どこから」くらいの意味の表現となります。

nean kur ney ne oman? その人はどこへ行きました?
nean kur ney wa no ek? その人はどこから来ました?
nean kur ney ta an? その人はどこにいますか?

3. nen ta an

nen ta an? 「だれですか?」は、沙流方言などでのhemanta anの形に倣って作られたnep ta an?と同じように旭川アイヌ語教室で作られた表現で、実際の資料には使用例が現在のところ見つかりません。「何ですか?」の表現としてnep ne ya?の形が見つからないのと同様に、nen ne ya?という形も文法的には可能な形でありながら資料では確認できません。

nepe a? 「何?」という略式の表現が確認されているのに対して、「だれ?」にあたる略式の表現は報告されていません。nepe a?との類推で言えば、nene a?やnen a?くらいの形が想定されますが、そのような形もまた未確認です。

今日の構文

...kor ~, ... ~-a(ha)/-e(h)e-i(hi)//-oho/-u(hu) : ...の～(所有関係)

korが二つの名詞句を前に伴って「一つ目の名詞句の指すものが、二つ目の名詞句の指すものを持っている」ことを意味する表現であることから、しばしばこの表現を用いて「～の～」という所有関係が表現されることをkampinuye 8 学習の要点3 で学びました。けれども、全ての所有関係がkorを用いて表現できるわけではないことに注意してください。これまで学習した語を例に取れば、cise, pu, ekasi, huci, itakなどはkorを用いて所有関係が表現されますが、yup, utar, kotanなどは多くの場合korを用いずこれらの語の最後に特定の母音(-a, -e, -i, -o, -u)を加えるか(もともと母音で終わっている場合は加えない) またはそのような母音を二回繰り返して間にhの音を挟んだ形(-aha, -ehe, -ihi, -oho, -uhu)を加えることで表現されます。

ekasi kor cise	●ekasi cise(he)	おじいさんの家
ekasi kor pu	●ekasi pu(hu)	おじいさんの倉庫
ekasi kor huci	●ekasi kor huci(hi)	おじいさんのおばあさん
●ekasi kor yup	ekasi yupi(hi)	おじいさんの兄
●ekasi kor utar	ekasi utari(hi)	おじいさんの倉庫
●ekasi kor kotan	ekasi kotanu(hu)	おじいさんの村

文化的背景

nep ta an? も nen ta an? も、現時点ではアイヌ語旭川方言の資料でその存在が確認されておらず、沙流方言などでのhemanta anの形に倣って作られた表現であることを今日の学習の要点3 で学びました。けれども、nep ne ya?, nep an?, nekon an pe ne ya? などのように「何ですか?」を意味し文法的には可能だと考えられる表現はnep ta an?の他にも幾つか考えられます。同様に、「だれですか?」を意味し文法的に可能だと考えられる表現はnen an?, nen ne ya?, nekon an kur ne ya?のようにnen ta an?以外にも考えることが出来ます。

このようなことから考えると、これからアイヌ語の旭川方言(およびその他の北海道北東方言)を使っていこうとする私たちが、以上のうちのどの表現をどんな場面で用いていかに応じて「現代アイヌ語の旭川方言」ないしは「北海道北東方言」での「何ですか?」、「だれですか?」という表現が決まってくると考えるべきかもしれません。伝統的な表現というののはっきり確認出来ている場合は、それを正確に用いていくことが大切です。けれども、そのような確認が困難ないしは不可能な場合は、アイヌ語の文法と語彙と文化的な背景に鑑みて、より相応しい表現を選び取っていく勇氣が必要かもしれません。どう言ったら良いのか分からないことを理由にアイヌ語を使わなくなってしまうというのは余りにも残念なことです。

言葉をもう少し詳しく

今日の構文で、cise, pu, ekasi, huci, itakなどはkorを用いて所有関係が表現されるのに対して、yup, utar, kotanなどは多くの場合korを用いずこれらの語の最後に-a(ha), -e(he), -i(hi), -o(ho), -u(hu)を加えることで表現されることを学びました。このような～kor...と～...-a(ha)/-e(h)e-i(hi)//-oho/-u(hu)という二種類の所有表現は、「二つ目の名詞の指示対象が一つ目の名詞の指示対象から切り離しても元の機能を果たすもの」か「切り離したら元の機能を果たさないもの」かの違いに基づいて概ね使い分けられるようです。～...-a(ha)/-e(h)e-i(hi)//-oho/-u(hu)という所有表現の...に現れる名詞には、yup, utar, kotanの他にsik(目) etu(鼻) tek(手) cikir(足) pake(頭)などの身体部位やona(父) unu(母) yup(兄) sa,(姉) ak(弟) matak(妹)などの極めて近い親族関係があります。これらは、一つ目の名詞の指示対象「～の」から切り離されてしまうと、もはや元の機能を果たさないものばかりです。身体部位は体から切り離すと死んでしまいますし、親族関係はそのつながりを断ってしまったらもはや親族ではなくなってしまいます。村は、そこに住む人が居なくなってしまうえば、荒廃してもはや村ではなくなってしまおうでしょう。

MEMO

今日の単語

petcamun ペッチャムン【形容詞】川村の、川端の。;<pet-sam-un川・のそば・にいる); pet sam ta an(川のそばに居る)

ruwe ルウェ【形式名詞】～(な)こと、～(な)の。;[動詞句+][～である・した]こと・の。(類ru); [iki+] iki sekoran=eraman hi(～だと分かっていること)

ru ル【形式名詞】～(な)こと、～(な)の。;[動詞句+][～である・した]こと・の。(類ruwe); [iki+] iki sekoran=eraman hi(～だと分かっていること)

un ウン【他動詞】～が～に本来的にある、～が～につく。; [nep¹ nep²+][何か¹][何か²]に本来的に存在する[何か¹][何か²]に生息する、[何か¹][何か²]につく。; [nep¹ nep²+] ney ne yakka nepka¹ nepka² or ta an, nepka¹ anakne nepka² or ta an pe ne(いつでも何か¹は何か²のどこにある、何か¹は何か²のどこにあるものである)

yupi, yupihi ユピ・ユピヒ【名詞】～の兄。; pa poro irwaki(～の年上の兄弟)

yup ユツ【名詞】兄。; 概念としての兄。「～の兄」の意味ではyupi, yupihiが用いられる。; pa poro irwak(年上の兄弟)

kampinuye 10 (wan) : 時を表現する(いつ、すぐ、～まで)

カンピヌイエ ワン

B: ne ekasi anakne huci yupihi ne ruwe ne. ネエカシアナッネ フチユピヒネルウェネ	そのじいちゃんはね、ばあちゃんの兄さんなの。
A: hempar hosipi ru a? nani hosipi? ヘンパヲオシビルア? ナニオシビ	いつ帰ってくるの? すぐ戻る?
B: onuman pakno somo ek. オヌマンパクノ ソモエク	夕方まで戻らないわ。
A: tanpe huci kore yan. タンペフチコレヤン	したら、これはあちゃんにあげて。

学習の要点

1. nani

naniは「すぐに、まもなく」ぐらいの意味の副詞です。「描写される行為が短時間で済むこと」と「描写される行為が始まるまでに時間が掛からないこと」の二つの解釈の可能性があります。反意語としてはratcitara ラッチタラ「ゆっくりと、穏やかに」が考えられますが、ratcitaraの反意語は寧ろtunasno トゥナッノ「速く」であることが多いようです。「遅い、遅れる」の意味の語に moyre モイレがあります。moyre no という形は資料に見られません。因みに、moyre と tunas を並べた moyre tunas 「遅かれ早かれ」という表現もあります。

2. onuman, kunnano, tokam, kunne

kunnano, tokam, onuman, kunne は、それぞれ日本語の「朝、昼、夕方、夜」に概ね対応します。日本語では、これらに「～になる」を加えることで一日の時間的な変化を表現しますが、アイヌ語では an を用いて表現します。日本語の発想に従うと ne を用いたくなるのですが、ある時間帯や期間や季節は「現れる」ものとしても捉えることが出来ます。アイヌ語では、そのような事物の捉え方で an 「現れる」を用いるのかも知れません。なお、kunnano, tokam, onuman に ipe (食事) という語を加えて「朝食、昼食、夕食」という表現が作られます。

kunnano (tokam, onuman, kunnean) an	朝(昼、夕方、夜)になる。
kunnano ipe	朝食
tokam ipe	昼食
onuman ipe	夕食

3. pakno, pak

pakno (または no の付かない pak) は、前に名詞句または動詞句を伴って (1) 「～まで、～ほど、～くらい」または「～するまで、～するほど、～するくらい」という程度や限界を意味する表現を形成する場合、(2) 「～まで、～するまで」という期間を意味する表現となる場合、(3) 単独で用いられて「それまで、それほど」という意味の副詞として働く場合の三つの用法があります。

te pakno/tane pakno	今まで...、これまで...
nis kotor eus pakno	空に突き刺さるくらい...
huci hosipi pakno	おばあさんが帰ってくるまで...
pakno an kur	(成長して)これほどまでになった人は...
pakno ne kor	(もはや)それまでで...

今日の構文

名詞句... + 名詞句～ + 名詞句 + kore : ...が～に を与える

kore は意味的に三つの要素(「...が」、「～に」、「～を」)の関係(「与える」)を表すもので、時にはそれら三つの要素全てが名詞句で表現されます。一つは「～が」に当たる要素で、残り二つは目的語で、それぞれ「～に」、「～を」に当たります。二つの目的語が両方も表現されるのは比較的まれです(どちらか一つは第二期に学ぶ予定の人称接辞で表現されることが圧倒的に多いようです)。けれども、両方の目的語が表現されるときには、次の例にあるように「～に」を先に「～を」を次に言うことが多いようです。(an=は「私(が・の)」という意味の人称接辞。)

neanpe an=saha an=kore そのような男に私の姉をくれてやった。

文化的背景

kor と kore を較べると綴りが似ていることに気づきます。kor が「～を持っている」、kore が「～に～を与える」と日本語に訳してしまうと意味の類似が見えにくくなります。実は、kor-e の -e は「～させる」という使役の意味を加える接尾辞(単語の後ろに付く語形成要素)です。このことから kore は「～に～をもたせる」という意味が元になって「与える」という意味を持つようになったことが推察されます。日本語とアイヌ語の関係に関心のある人の中には、「くれる」と kore に見られる音の類似を理由にこれらの語は同起源だと言う人が時折いるようです。けれども、このようなアイヌ語としてのなりたちを考慮する限り、「くれる」と kore を直接に結びつけるのは危険です。日本語でも、kor に近い音を持ち「持つ」に近い意味を持つ語が見つからない限り、「くれる」と kore はおろか日本語とアイヌ語の同起源説を展開するのは性急すぎると言わざるを得ません。英語とドイツ語と同起源であるとか、フランス語、ロシア語、更に遡ってラテン語、ギリシャ語、サンスクリット語までが共通の言語(祖語)から分岐したものであると考えられたように、日本語がアイヌ語から枝分かれした言語であるとか、アイヌ語と日本語は共通の祖語から枝分かれした言語であるなどということが判明したら、それは様々な学問分野にとって胸躍る大発見かも知れません。でも、そう判断するためには言語研究の正式な手続きと慎重な判断が必要なのだそうです。

言葉をもう少し詳しく

kore の前に来る二つの目的語は、「～に」、「～を」の順序になりやすいよさだということ、今日の構文で紹介しました。興味深いことに、日本語でも同じような傾向が働いているようです。「～に～をやる」も「～を～にやる」も文法的には可能ですが、「誰かに必要とするものを与える」という解釈を持つ場合には特に「～に～を」の順序が守られるようです。次の例で括弧に入った語を加えて名詞修飾句にすると「～を～に」の語順の不自然さがよりはっきりするかも知れません。

赤ん坊にミルクをやる	ミルクを赤ん坊にやる
花に水をやる	水を花にやる
車にガソリンを入れる	ガソリンを車に入れる

アイヌ語についてはまだはっきりしませんが、日本語では「～を～に」の語順と「～に～を」語順では結び付けられやすい意味が違うようです。

MEMO

今日の単語

hosipi ホシビ【自動詞】帰る、戻る。; an=kore cise ene oman=an, or ta hoski no an=an hi ta oman=an (自分の家に行く、元いた場所に行く)

kore コレ【他動詞】～が～に～を与える。; [nep¹ nep² nep³ +][何か¹]が[何か²]に[何か³]を与える。(反 sak); [nep¹ nep² nep³ +]nep ka² nep ka³ kor kuni nep ka¹ iki ([何か²]が[何か³]を持つように[何か¹]する。)

kunne クンネ【名詞】夜。; hotke=an kuni hi okake (床に就く時間より後); 【自動詞】暗い。; somo peker (明るくない)

kunnano クンナノ【名詞】朝。; sirpeker okake, tokam etoko (夜明けの後、昼の前)

nani ナニ【副詞】すぐ、まもなく。; moyre somo ki no (遅れることなく)

onuman オヌマン【名詞】夕方。; peker chup ahun okake, hotke=an etoko (太陽が沈んだ後、寝る前)

tokam トカム【名詞】昼。; kunnano kunne uturke, peker cup ahun etoko (朝と夜の間、太陽の沈む前)

kampinuye 11 (sinep ikasma wan) : 考え・気持ちを伝える (～したい、～するようだ、～と)

カンピヌイエ シネナイカシマワン

A: tanpe huci kore yan. タンペフチコレヤン	したら、こればあちゃんにあげて。
B: nepe a? ネペア?	なあに?
A: huipe ne. huci e rusuy sekor hawas. フイベネ フチエルスイセコロハワシ	フイベなの。ばあちゃん食べたいって言ってたから。
B: sonno keraan siri. ソンノケラアンシリ	あら、おいしそう。

👉 学習の要点

1. nepe a?
kampinuye 4の今日の構文で **nep ta an?** (何ですか) という形を学びました。これは正式な(ある意味では敬語的でもある)言い回しです。場合によっては、文語的な言い方とも言えます。それに対して、**nepe a?** は略式の(親しみの情を含めた、けれども時には馴れ馴れしくもある)言い回しです。より口語的な言い方と言っても良いでしょう。nepにnepeは日常的に意思疎通を目的とするような文脈では用いられませんが、語り物や歌い物の中では用いられません。taという表現自体が文語的なので、nepe ta an?のようにnepeと共に用いられることもありません。

nepに何らかの要素が加えられてnepeになっているという可能性が十分にありますが、nepeという語の成り立ちは今のところはつきりしません。ney ne he?やtanpe he?に見られる「疑問または関心の態度」を表現するのに用いられるheがnepに加えられているという見方を仮にすると、今度はその後に付加されるaが不可解です。aはyaが弱化して生じた形と見られていますが、heの後にyaが続くhe yaという連鎖は資料中に見出されないので、

ney ne he? どちらへ?
tanpe he? これか?

2. rusuy (, easkay, eaykap)

rusuyは前に動詞句を伴って「～したい、～したがる」という意味の表現を形成します。同じように動詞句を伴って全体として大きな述語を派生する代表的な語にeaskay(～することが出来る、～することが上手である)やeaykap(～することが出来ない、～するのが下手である)などがあります。このような働きをする表現は、「動詞(の意味)を助ける」という理由から助動詞と呼ばれることがあります。ipe-rusuy(食事したい)やmokor-rusuy(眠りたい)のように、rusuyが前に来る動詞と一緒にあって独自の意味を持つ語となる例もあります。

iperusuy お腹が空いた
mokonrusuy 眠い

3. siri, sir

sir(i)には、(1)「大地、山、島」等の具体的な意味を持つ場合と(2)「(目で捉えられた)様子、天気、状態」などのやや具体性を欠く意味を持つ場合があります。(2)の場合には、kampinuye 4学習の要点3で学んだruweやkampinuye 6学習の要点3で学んだru ne, ruwe neと同じように文に後続して「話し手がその文の内容をどんなものとして扱っているか」を表します。本文のようにsiri単独でも用いられませんが、sir ne, sir anなどの形もよく用いられます。ru ne, ruwe (ne)は「文で表現される内容を話し手ないしは聞き手が既に認識している、自分の知識の一部としている」ことを伝える表現でしたが、sir(i), sir ne, sir anは「文で表現される内容を話し手は視覚を通して認識した」ということを伝える表現で、「～しそうだ、～するようだ、～したようだ」程度に訳されます。

kotan an a kotom sir an (ある土地を目の当たりにして)村があったようだ。

👉 今日の構文

～ sekor + (発話・思考の動詞) : ～と(言う、思う)

sekorは語、句、文など様々な要素を前に伴って発話や思考の内容を導きます。このことと呼応して、しばしばitak(言う、語る、話す)などの発話の動詞またはyaynu(思う、考える)のような思考の動詞が後続しやすいようです。けれども、これらの動詞が後続

しなくても、～ sekorは「発話または思考の内容」を導く表現ですから「～と言った、～と思った」という意味を理解する必要があります。オイナ(神々の物語で歌われるもの)やトゥイタッ(昔話のようなもので語られる)には、sekor...itak(～と...が語りました)、～ sekor...isoitak(～と...が語りました)、～ sekor...yayeisoitak(～と...が自分のことを語りました)、～ sekor...yayetuytak(～と...が身の上話をしました)などと結ばれるものもありますが、単に～ sekor(～だとさ)と結ばれることも少なくありません。この場合は、「～と...が言ったとさ」という具合に解釈されるものようです。

ところで、発話や思考を表す表現には～ yak ye(～という)や～ kuni ramu, ～ kunak ramu(と思う)もあります。sekorは直接話法も間接話法も取れるのに対して、yakは大抵間接話法を前に取る点が異なります。また、kuni, kunakはsekorと違って思考の内容が「当然である、間違いない」と考えられていることが含意されます。そのため、用いられる発話・思考の動詞もye, ramuと異なるようです。

📁 文化的背景

huipeと旭川で言えば、動物や魚の生で食べる料理を指すのに用いられているようです。(1)「鮭の鼻先を白子と共に包丁で叩いて葱など香草を入れた料理」を指すという方もいれば、(2)「鮭の尾の肉、脳、メフン、エラの周囲の肉、目玉、白子を混ぜ切りにして塩を加えて食べる料理」と答える方もおり、また(3)「うさぎの肝臓の刺身」と書いている方もいます。沙流などでは、(1)に類似した料理をcitatapと呼ぶようで(旭川でも現在ではこの語が広く知られています) huypeという生で食べるかどうかに関係なく肝臓、レバーを指すようです。旭川でもhuipeが「肝臓」を指すことはあったようですが、それは専ら生で食べるものを指し、それ以外はra(肝臓、魚の内臓)の方が普通だったようです。

🔍 言葉をもっと詳しく

ru(we), sir(i), haw(e), hum(i)

ru ne, ruwe (ne)は「文で表現される内容を話し手ないしは聞き手が既に認識している、自分の知識の一部としている」ことを伝えるのに対して、sir(i), sir ne, sir anは「文で表現される内容を話し手が視覚を通して認識した」ということを伝えることを既に学びました。それに対して、haw(e), hawan, hawasは「文で表現される内容を話し手が人の言葉を通して認識した」ことを、hum(i), humi ne, humasは「文で表現される内容を話し手が聴覚を通して(言葉には頼らず)認識した」ことを表現します。このような用法を普通の名詞と区別して、形式名詞と呼ぶことがあります。ru(we), sir(i), haw(e), hum(i)には、それぞれ「跡」、「目に見えた様子」、「声」、「音」という意味を持つ普通の名詞としての用法があり、文の後に用いられて「話し手がその文の内容を「跡」、「目に見えた様子」、「声」、「音」といった情報源に基づいて判断した」ことを表現する形式名詞としての用法は、普通名詞としての用法から発達したと考えることが出来ます。

MEMO

📖 今日の単語

e工【他動詞】～を食べる。(自ipe); an=paroho an=o wa an=kuykuy, an=ruki(口の中に入れて嚙んだり、飲み込んだりする)

hawasハワシ【自動詞】言う、言われる、(という)話である。; an=ye(言われる)

huipeフイベ【名詞】刺身、魚や動物を生で食べる料理。; somo an=suye no an=e usa cep usa kam(煮炊きせず食べる魚や肉)

keraanケラアン【自動詞】美味しい。; monrayke=an wa nep ka an=ante(努力して何かを現れさせる)

rusuyルスイ【助動詞】～したい。; [動詞句+][～し]たい、[～し]たがる。; [iki+] iki=an hi an=eramasuy(～することが好ましく思う)

sekorセコロ【助詞】～と。; [語、句、文+]～と(言う、思う); yak, ari(～と)

sonnoソンノ【副詞】本当に、とても。; kasuy(～すぎる)

kampinuye 12 (tup ikasma wan) : 伴う事柄を表現する (～と一緒に、～して)

カンピヌイエ トゥパイカシマワン

B: tanpe sonno keraan siri. タンペソンノケラアンシリ	これ、おいしそう。
A: huci hosipi yakne utar tura no ukousaraye wa e yan. フチオシピヤクネ ウタットゥラノウコウサライエワ エヤン	ばあちゃん帰ったらみんなで分けて食べて。
B: hunna. フナ	どうも。
A: pirka no okay yan. ピリカノオカヤン	それじゃ、ごめん下さい。
B: iyayraykere. yaytupare no hosipi yan. イヤイライケレ ヤイトゥパレノオシピヤン	どうもごちそうさま。ごめん下さい。

👉 学習の要点

1. tura
turaには、目的語を取って(1)「～を連れる、～を伴う」という意味の他動詞として、(2)「～と共に、～と一緒に」という意味の助詞として用いられる用法と、(3)単独で「(前で言及されたことを指して)それ、それら、彼、彼女、彼らと共に」という意味の副詞としての用法があります。(2)に順ずるやや慣用的な用法としてutar tura (no)(みんなで、みんな一緒に)やcis tura (no)(泣きながら) oripak tura(謹んで、畏まって)があります。これらは、「仲間と共に」、「泣くという行為を伴って」、「謹み畏まるという態度を伴って」から派生したものと容易に理解することが出来ます。

utar tura (no)	(みんなで、みんな一緒に)
cis tura (no)	(泣きながら)
oripak tura	(謹んで、畏まって)

2. no
noには、(1)自動詞に後続して副詞句を形成する働き、(2)否定的な動詞句に後続して接続詞waやkorのような接続詞としての働き、(3)助詞や副詞に後続して口調や韻律を整える働きの三つがあります。(1)の例としては、本文にあるpirka(良い)の他にyayeyam(自愛する) yaytumare(気をつける) totek(元気である、健康である)などに付く場合を指摘することが出来ます。(2)としては～somo ki no(～せずに) ～isam no(～なく) ～sak no(～なく)などが挙げられます。(3)の例には、本文のtura noに加えてwa no(～から) pakno(～まで、～ほど、～くらい) peka no(～通って)などがあります。

yayeyam no	自愛して	～somo ki no	～せずに
yaytumare no	気をつけて	～isam no	～なく
totok no	元気で	～sak no	～なく

👉 今日の構文

動詞句・文 + yak/yakne/yakun + **動詞句・文** : ~すると...する、~すれば...する、~したら...する

yak, yakne, yakunなどの表現は、動詞句と動詞句あるいは文と文をつないで「条件」を意味します。～yak pirka(～すると良い)や～yak wen(～するといけない)のように動詞句同士をつなぐ場合には一番短いyakが好まれるようです。yakneとyakunは、意味と機能に関する限り大きな違いはないようですが、yakunの方が用例が幾分多いようです。沙流方言や千歳方言では、yakneの後には「良い、悪い、望ましいことが起こる、ありがたい、こまったことになる」などの価値判断を含む内容が来るのに対して、yakunはそのような判断には中立である点で異なると説明されます。

📁 文化的背景

iyayraykere
iyayraykereは、「ありがとう」と和訳されることが多い表現です。けれども、これにはアイヌ語のニュアンスと多かれ少なかれずれるようです。日本語には、「ありがとう」の他にも感謝の程度やしてもらった行為の伴う困難さなどに応じて「わるい(ね)」、「どうも」、「サンキュー」、「どうもありがとう」、「ありがとうございます」、「ここから感謝致します」など様々な表現が使い分けられます。けれども、アイヌ語ではこれほどの区別はなされないようです。

服部四郎編『アイヌ語方言辞典』で「ありがとう」の項を見ますと、八雲・幌別、沙流、帯広、旭川、名寄、宗谷、樺太のいずれの地方でも(僅かな綴り上の違いはあるにしろ)iyayraykereという一語が書かれています。また、「どうもありがとうございます」の項を見ると、何も書いていないが、ku=yayrayke(私は感謝する)の前にsino(本当に)やcise tura no(涙を流して)のような表現が加えられているだけです。

また、どんなときにこれらの表現を使うかという点、「みやげをもらった」、「食べるものがない時にお米をもらったような時」と書かれており、よほどのことでないかぎり使われない表現らしいことが窺えます。iyayraykereは、どうやら日本語で軽く「わるい(ね)」、「どうも」、「サンキュー」、「ありがとう」というような場面で使う表現とは違うようです。

それに比べて、hunnaというのはこれら軽い「ありがとう」にやや近いかもしれませんが、そもそもアイヌの文化でこの軽い「ありがとう」をそれほど頻りに言い合ったかどうか自体疑問です。このことは日本語の「～して下さい」と英語のpleaseを比べるとよりはっきりするかもしれません。日本語では、道を尋ねられたときにも「この道をまっすぐ行って、二本目を右に折れて下さい」のように「～して下さい」を使います。けれども、同じ場面でPlease go straight and make a right at the second cornerは極めて不自然です。英語では、動詞で表現される好意が話し手の利益になる場合でなければpleaseは使いません。「直進して右折する」ことで利益を得るのは話し手ではなく聞き手ですから、pleaseはおかしいのです。確かに、「～して下さい」とpleaseは同様な場面で用いられる表現のように見えます。けれども、それぞれの意味と機能がぴったり合うことはないということなのでしょう。

🔍 言葉をもう少し詳しく

keraanは「おいしい」という意味を持つ語ですが、その成り立ちはkera-an(味がある)です。kera pirka(味が良い)も「おいしい」という意味ですが、「とてもおいしい」というニュアンスであることが多いようです。それに対して、「まずい」はkera wenと言います。keraanと言えぬのなら「まずい」はkera isam(味が無い)でも良さそうですが、資料を見る限りそのような表現は見当たりません。

興味深いことに、韓国語でも「おいしい」という意味は「味がある」と表現します。こちらは、アイヌ語と違い「味が無い」という表現で「まずい」という意味になります。(mas マツ(味)、iイ(が)、iss-ta(ある)、ops-ta オナタ(ない))

mas-i iss-ta	(味がある)おいしい
マシイッタ	
mas-i ops-ta	(味が無い)おいしい
マシオッタ	

MEMO

📖 今日の単語

hunnaフナ【間投詞】**どうも。**

iyayraykereイヤイライケレ【間投詞】**どうもありがとうございます。**

noノ【副詞】**～に、～く、～して。** ; [自動詞+]副詞化する。[助詞+]語調を整える ; ruwe ne kor(～であり)

pirkaピリカ【自動詞】**良い。** ; 良い、綺麗である、元気である。 ; an=eramasuy(好ましい)

turaトゥラ【助詞・副詞】**～と共に、～を伴って、それ(彼・彼女・彼ら)と共に、それ(彼・彼女・彼ら)を伴って。** ; [他動詞]～を連れる、～を伴う。

ukousarayeウコウサライエ【他動詞】**～を分け合う。** ; serke poronno an=kar wa ponno ponno an=ukouk(部分を作って、ちょっとずつ取り合う)

wenウェン【自動詞】**悪い。** ; 悪い、ひどい。 ; somo pirka(良くない)

yak, yakne, yakunヤク、ヤクネ、ヤクン【接続助詞】**～すると、～するなら、～したら。** ; [動詞句・文+]条件を導く。 ; [iki+] iki hi ta(～する時に)

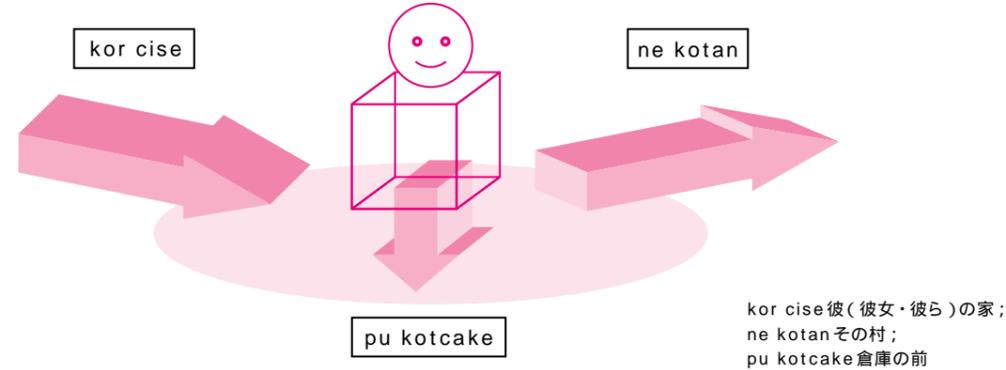
yaytupareヤイトゥパレ【自動詞】**元気である・になる、健康である・になる。** ; siyeye an=sak(病気がない)

kampinuye 13 (rep ikasma wan) : 練習問題(2)

カンピヌイエ レイカシマワン

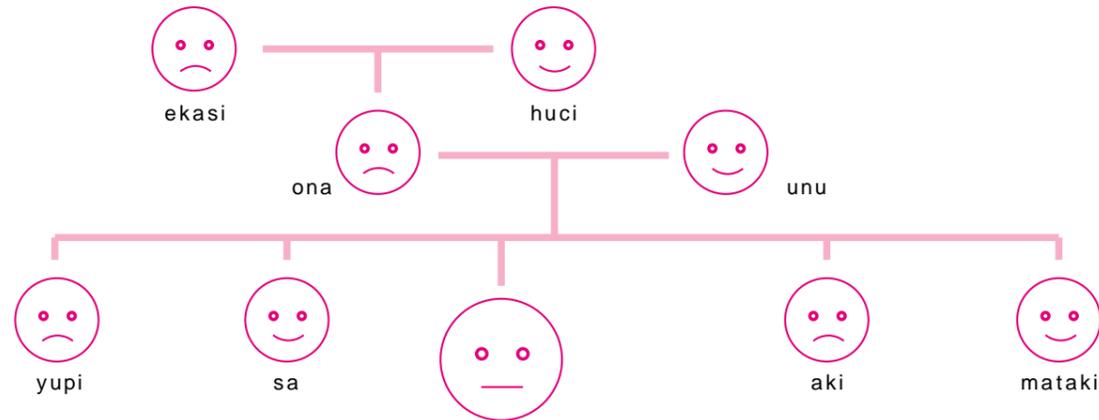
復習の要点

1. 「～に、へ、から...」、「はやく/ゆっくり...」、「朝食/昼食/夕食まで...」、「一緒に...」、「そこ/どこ」、「～と思う、言う」

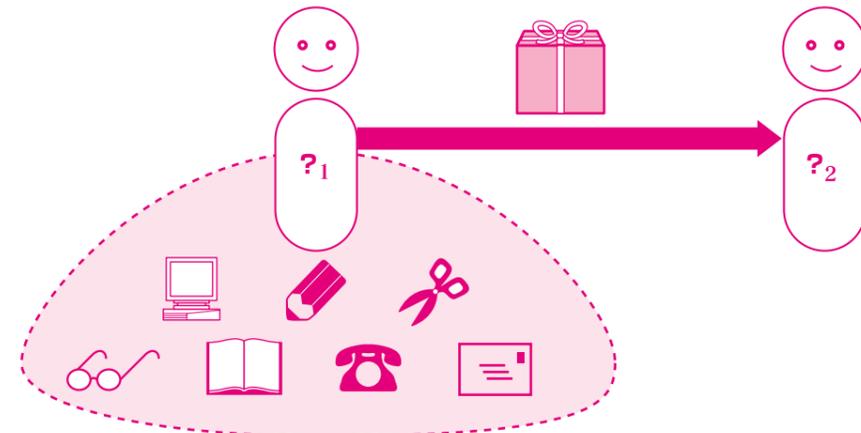


- (1) 「(e)ne、wa (no)」と「行く/来る」を組み合わせ文を作ってみましょう。
そして「早く、ゆっくり」という表現も使ってみましょう。(8-1, 10-1)
(ヒント)「cise にゆっくりと行く」/「pu から早く来る」
- (2) 「ta」と「いる」を組み合わせ文を作ってみましょう。そして「朝食/昼食/夕食まで」という表現や、「一緒に」という表現も使ってみましょう。(8-1, 10-2, 10-3, 12-1)
(ヒント)「昼食までkotan にいる」/「夕食まで一緒にcise にいる」
- (3) 「そこへ行った」といえるように練習しましょう。(8-2)
- (4) 「どこへ/どこから」と「行く/来る」を組み合わせ聞いてみましょう。(8-1, 9-2)
(ヒント)「どこへ行く?」/「どこから来る?」
- (5) 今までの(1)～(3)の文は、1の練習問題にでてくる人が、(a)思っていること、(b)言ったこと、と表現してみましょう。(11-構文)
(ヒント)「どこへ行く?」とお母さんが言った。/「一緒にpu にいる」とおじいさんは思った。

2. 「～の...」、「持っている」、「与える」



- (1) 「誰ですか?」といえるように練習しましょう。(9-3)
- (2) 「誰ですか」と聞かれたので、答えてみましょう。これは田中さんの家族です。
指でさしていってみましょう。(8-3, 9-構文, 9-「言葉をもう少し詳しく」)
(ヒント)「田中さんのお母さんです。」/「田中さんのおばあさんです。」
- (3) 「彼の」、「彼女の」という表現を使ってみましょう。(8-3)
(ヒント)「彼女のお母さんです。」/「彼のおばあさんです。」
- (4) 下の単語を使って、「...の～」という表現を使ってみましょう。
(8-3, 9-構文, 9-「言葉をもう少し詳しく」)
cise, etu, itak, sik, kotan, cikir, tek, pu, pake, utari
(ヒント)「お母さんの家です。」/「おじいさんの目です。」
- (5) 前の問題の人物を、下の左側の「?₁ (クエスチョンマーク)」の中にイメージして、「...が～を持っている。」という文を作ってみましょう。(8-3, 9-構文, 9-「言葉をもう少し詳しく」)
(ヒント)「お母さんが...を持っている。」



- (6) さらに、別の人物を、右側の「?₂ (クエスチョンマーク)」の中にもイメージして、「...が～に～をあげる。」という文を作ってみましょう。(10-構文)
(ヒント)「お母さんがおじいさんに...をあげる。」

3. 「～ために...」、「～したい」、「～だから...」、「～したら...」、「～まで...」

「あそぶ (sinewe)」、「その家/旭川/札幌に戻る (ne cise/Cikapuni/Sapporo wa hosipi)」、「朝食/昼食/夕食を食べる (kunnano ipe/tokam ipe/onuman ipe e)」、「魚を分け合う (cep ukousaraye)」、「家/旭川/札幌から来る (cise/Cikapuni/Sapporo (e)ne ek)」、「そこへ行く (ekota oman)」、「倉庫の中を覗く (pu oske ene inkar)」、「彼の家にいる (kor cise ta an)」

- (1) 「～するために...する」という表現を使って、色々表現を組み合わせてください
(今回は、より自然な表現を作るために、上のヒントの表現を変えても構いません。以下同じ)。(8-構文)
(例)「あそぶためにそこへ行く」/「朝食を食べるために家に戻る」
- (2) 「～したいから...する」という表現を使って、色々表現を組み合わせてください。(8-構文, 11-2)
(例)「夕食を食べたいから家に戻った」/「おじいさんの家を見たいから札幌から来た」
- (3) 「～したら...する/しよう」という表現を作ってください。(12-構文)
(例)「おじいさんが旭川から戻ったら、夕食を分け合おう」
- (4) 「～するまで...する」という表現を作ってください。(10-3)
(例)「おばあさんが札幌から戻るまで、家にいる」